

NEWS!

Vol. 41-4

No. 206

令和4年秋号

編集・発行

松浦機械製作所

日本国際工作機械見本市「JIMTOF2022」に出展 東・南ホールの2ブースで最新のソリューションをご提案

マツウラは2022年11月8日(火)～11月13日(日)の6日間、東京ビッグサイトで4年ぶりに開催される日本国際工作機械見本市「JIMTOF2022」に出展します。JIMTOFは、工作機械およびその関連機器等の展示会であり、今回は東京ビッグサイトの東・西展示棟に加え南展示棟を新たに利用し、過去最大規模で開催されます。

MX/MAM booth 東3ホール E3013



新型 MX-520 PC4



MAM72-52V PC15

本展示では“選ばれる理由にこだわる”をテーマに自動化・無人化、見える化、環境対応への取り組みをご紹介します。「新型MX-520 PC4」「MAM72-52V PC15」の2台に加え、JIMTOFで世界初披露となる新機種2台を実機展示・実演します。

LUMEX booth 南1ホール AM105



LUMEX
Avance-25

特別展となる「AMエリア」では、20年以上AMに取り組むマツウラが本当に伝えたい“AMのモノづくり”と題し、LUMEX Seriesの最新の造形事例やユーザー実例を通して、AMの加工プロセス(工程検討から後加工、評価まで)が学べる展示を企画します。

JIMTOF2022 第41回
日本国際工作機械見本市
2022.11.8 - 13
9:00-17:00 @東京ビッグサイト全館
最終日は15:00まで (東京国際展示場)

開催期間中、会場から
ダイリレポート決定!

JIMTOF2022公式サイト

東3ホール
E3013
MX/MAM

Matsuura
EXHIBITION
BOOTH

南1ホール
(AMエリア)
AM105
LUMEX

https://exhibition-matsuura.com/entrance/

特設サイトで最新情報を配信!
開催前から期間中まで展示会の見どころや
新製品情報をお届けします。

お問合せ先：営業本部 営業サポート
TEL：0776-56-8105 FAX：0776-56-8151

日本のヘソ 福井 No.204



福井は日本のドマン中「日本のヘソ福井」第204回目は「エキセントリック・カレッジふくい」の話です。福井県にて地域社会の新しい価値観を生み出そうと活動する若者を応援する取り組みがスタートしました。その名もエキセントリック・カレッジという福井県へのUターンや県内で働くこと、起業すること、街づくりに関わりたいという高校生～39歳までを対象にした仮想大学です。取り組みは福井県と慶応義塾大学SFC研究所が連携し、学長を福井県の杉本達治知事、プロデューサーを同大学特任准教授の若新雄純さんが務めます。講師陣は女優・モデルの高橋愛さん、福井商業高等学校

チアリーダー部「JETS」顧問の五十嵐裕子さん、全国最年少市長として初当選した前佐賀県武雄市長の樋渡啓祐さんなど、分野を問わずエキセントリックな活動をしてきた先人の方々が登壇するとのこと。

受講生は選考会を通じて、定員を超える応募者90名から選考を通過した25名に決まりました。学費は無料で月3回程度の講義や合宿にて、来年3月まで実施されます。

第1回講義では、高橋愛さんが登壇し、杉本知事、若新さんとのトークセッションにてモーニング娘。に加入当時の経緯や思いを振り返りながら、自身の生き方を紹介したとのこと。この回は、受講者25人に加え、一般観覧者ら約50人が聴講しました。

この活動を機に福井県をもっと面白くしたいという動きが活発化し、福井県が盛り上がることを期待します。

ユーザーを訪ねて

No. 191

株式会社よしいけ工業所： マルチパレットの活用で「短納期

今回のユーザーを訪ねては、東海北陸自動車道の一宮西ICから車で15分の距離にある株式会社よしいけ工業所です。同社は機械・電子・医療・自動車など様々な分野に向けた金属部品加工を手掛けており、取り扱う素材もアルミ・鉄・炭素鋼・真鍮・ステンレスなどの一般材から難削材まで多岐に渡ります。あらゆる治具を自社製作しており、独自のアイデアを活かした提案力に強みを持ちます。またマルチパレット搭載のマシニングセンタを効率的に活用することで短納期のオーダーにも柔軟に対応してきました。取材には早川英二取締役社長にご対応頂きました。早川社長は2000年に同社に入社。以来、製造部門でマシニングセンタのオペレーターとしての業務に従事され、今年5月に創業者である先代から事業を継承する形で、2代目の社長に就任されました。



▲昨年11月に移転した新本社工場

創業のきっかけは居酒屋での出会い

同社の歴史は、1973年9月に先代社長である長谷川弘明氏が、一宮市東五城の地で金属加工業をスタートしたことから始まります。創業当時のユニークなエピソードについて早川社長に伺いました。「金属加工に従事していた先代がそこで培った技術を基に創業し、1977年3月に現在の社名となりました。創業のきっかけは居酒屋でのとある出会いからだったと聞いています。先代の行きつけだった居酒屋で、お客さんの一人と意気投合したところから話が進み、その方と二人で起業することになったそうです。創業当時はフライス盤を使用して、ガイドブッシュと呼ばれる軸受部品などを加工していました。当社は現在、鋳造品を扱う岡本・ナベヤグループの一員となっていますが、創業当時から同グループは主要な取引先でした。同グループへの納入実績が増えるにつれ当社の技術力も高まり、次第に半導体関連や工作機械関連など様々な分野との取引を持つようになりました」と早川社長。



▲早川英二 取締役社長

リーマンショックからの回復

順調に取引先を増やし、2007年までに4棟の工場を構えるまでに成長した会社でしたが、程なくしてかつてない不況に見舞われることとなります。「私が入社した2000年頃、当社では半導体製造の分野で使用される直動部品が主力製品となっていました。以前から半導体市場の景気変動に左右される形で、当社の経営にも何度か浮き沈みはありましたが、2008年頃から始まったリーマンショックの影響は、とりわけ大きなものでした。ある部品では月産15万個の受注が、月産7千個まで落ち込んだ程です。2010年頃までは非常に苦しい経営を強いられることになりました」と当時を振り返る早川社長。苦境に立たされた会社でしたが、持ち前の提案力と短納期対応における取引先からの支持は根強く、徐々に業績を回復させます。近年は順調に売り上げを伸ばし、2021年11月には、工場4棟の生産機能を集中、及び増強するため、愛知県一宮市に本社工場を移転しました。新社屋は従来の本社工場と比べ、敷地面積は2.3倍、延床面積は3.9倍の規模を誇ります。

マシニングセンタ17台すべてがマツウラ製

直動部品をはじめ様々な金属加工を手掛ける会社では、創業以来、多数のマシニングセンタを設備してきましたが、そのすべてがマツウラ製です。「1985年に設備された横形マシニングセンタMC-400Hが当社にとって初めてのマツウラ機で、私が入社して初めて操作を覚えた機械でもあります。加工精度と剛性が優れた機械であったことを記憶しています。現在は既に手放していますが、MC-400Hの実績は大きく、それ以降マシニングセンタに関してはマツウラ製のみを設備してきました」と早川社長。現在、同社では立形、横形、5軸合わせて17台のマツウラ製マシニングセンタが設備されていますが、その内10台をRA SeriesやR.Plus-550など2面パレット付の立形マシ

対応」と「働きやすさ」を両立

ニングセンタが占めています。「先代の頃から継承している当社の特色は、立形マシニングセンタのマルチパレットを活用し、機械を止めないことで生産性を高める点にあると私は考えます。それに付随し、治具をオリジナルで製作できるノウハウが、幅広い分野への対応力に繋がっています。当社の強みを最大限に発揮するうえで、マツウラのマルチパレット機の存在は大きな意味を持ちます」とマツウラ機を評価する早川社長。



▲新旧合わせて17台のマツウラ機が活躍

5軸マルチパレット機の恩恵

立形2面パレット機の活用により軌道に乗った同社は、加工の幅を広げるため5軸マシニングセンタの設備に乗り出します。「5軸の初号機は2010年に設備した**MAM72-42V PC2**です。傾斜軸を活用した加工品の引き合いがあり、それに対応するために導入しました。実際に5軸加工の恩恵を強く実感できたのはその後、2015年に設備した**MAM72-35V PC32**です。設備した当初は効果的な活用方法に悩んでおり、32パレットすべてを埋めるのに2年程を要しました。しかし、不定期で引き合いのあるリピート品への対応に活用するようになってからは、徐々に5軸マルチパレット機を活用するノウハウが蓄積されていきました。その後に設備した**MX-330 PC10**、**MX-420 PC10**についてはスムーズに立上げることができています。5軸マルチパレット機を活用した夜間無人運転は、現在当社の大きな戦力となっています」と語る早川社長。同社では今後も5軸マルチパレット機への設備投資を継続するとのことで、来年2月には**MAM72 Series**から新規に1台を設備予定となっています。

短納期対応と働きやすさの両立

取材の最後に今後の展望について伺いました。「近年、注目を集めている“働き方改革”への取り組みを更に進めたいと考えています。時間外労働の削減は、昨今の製造業

株式会社よしいけ工業所 概要

本 社 〒494-0012
愛知県一宮市明地字金屋敷6番地1
TEL 0586-85-7255
FAX 0586-85-7257

設 立 1977年3月4日

従業員数 42名

事業内容 金属部品加工(マシニング加工、NC旋盤加工、ワイヤーカットなど)

に共通する課題です。若手エンジニアを中心にワークライフバランスを重視する傾向は今後も高まっていくでしょう。特に当社は社員の平均年齢が同業他社と比べて若く、嬉しいことに今年も20代の社員が3名入社しています。当社で活躍してくれている若手の定着率を上げるためにも、時間外労働の削減に取り組んでいます。当社でも、従来は多くの従業員に長時間の残業や休日出勤をお願いせざるを得ない状態でした。しかし**MAM72 Series**や**MX Series**といった5軸マルチパレット機を効率的に稼働させられるようになってからは、残業時間の上限を2時間と設定し、休日出勤もほとんど必要なくなりました。当社の強みである短納期への対応力と、働きやすい職場環境を両立させるため、今後も5軸マルチパレット機を活用した業務効率化に、社員一丸となって取り組みたいと考えています。」と早川社長。



▲若手オペレーターが操作するMX-420 PC10

「2022年2月に設備した**MX-420 PC10**をきっかけに新たにEV関連での引き合いがありました。5軸マルチパレット機の活用は職場環境の改善に繋がるだけでなく、新規分野の開拓にも役立ちました」と早川社長。インタビューと工場風景の動画は、記載のQRコードを読み取りご視聴頂くことができます。また、当社ホームページでも公開中です。ぜひご覧ください。



MX/MAM
booth

**JIMTOF2022で世界初披露となる
新機種2機種をいち早く紹介!**

開発者メッセージとともに最新情報をお届けします。

今回、「選ばれる理由にこだわる」のコンセプトのもと、『MXシリーズ』『MAM72シリーズ』のベストセラー機に「安心・簡単・精度・自動化・環境」の視点から開発した最新キーテクノロジー (Advanced MIMS) を融合し、生産効率・使い易さを向上させることで、お客様が重要視する生産性・コスト競争力の強化を実現します。


NEW MAM72-42V PC32

 さらに長時間無人運転、
全ての性能をレベルアップ

- ① 操作性向上による作業負荷低減 安心・確実な無人運転を実現する新オペレーティングシステム
- ② 安定した長時間無人運転による生産性向上 “止まらない機械”を実現する新自動化システム
- ③ ダウンタイム削減による生産性向上 生産現場を見える化し信頼性の高い夜間無人運転を実現


NEW MX-330 PC10

 使い易さと自動化機能を備えた
5軸エン트리マシン

 マツウラ公式
ホームページにて
最新情報公開

開発担当

技術本部 開発研究

吉川 翔太
— 開発コンセプト

マツウラの操作パネルは長年同じデザインでした。同じデザインであることによって、機種がアップデートしてもユーザーの方は変わらない操作による安心感を得ることができます。しかし、時代が変わるとともに高機能化への対応やスマホ操作に慣れた若い世代のユーザーが操作し易いオペレーティングシステムの提供が必要となってきました。そこで、全ての性能をレベルアップした**MAM72-42V PC32**のリリースに合わせ、従来からの操作パネルを一新することとなりました。

— 開発のこだわり

私自身、当社へ新卒入社して8年目となり、開発を通じて自分自身が機械を使ってみて使いづらいつと感じたことや、お客様からの使い勝手に対する意見が蓄積してきました。操作パネルを一新するにあたって、蓄積してきた使い勝手に対する想いを全て開発に反映しています。画面の操作性においては、機械操作に慣れていない方はやりたい

開発者インタビュー

新機種 **MAM72-42V PC32** の新オペレーティングシステムを担当したエンジニアにインタビューをしました。

ことはわかるが、どう操作すれば良いかわからないという意見があります。その意見に対して、やりたいことがパッと見つかるアイコンの配置として、初心者の方も迷わず使える操作性を意識しています。デザイン性については、各画面に統一性を持たせ、黒を基調とした見易くスタイリッシュなデザインとしています。

— 苦労したエピソード

長年見慣れたデザインをどうすればさらに使い易い操作パネルになるか、改めて考え直す際に苦労しました。そこで社外の意見も取り入れようと、今回はデザイン会社と協議をしながら開発を進めていきました。新しいアイデアが出る反面、それを実現するためには社内ですべて使用していないプログラミング技術を活用する必要がありました。チームとしてチャレンジングな内容でしたが、この開発を通じてチーム全体の視野が広がったと感じています。

— ユーザーへのメッセージ

JIMTOFの会場や当社でぜひ実機を触ってみて新しい操作を体感してください。そして、触った時のご感想やご意見を忌憚なくお伝え頂けると幸いです。頂いたご意見を率直に取り入れ、ユーザーの皆様が使い易い機械を提供できるようにしていきたいと思っております。

LUMEX booth

JIMTOF2022で新設となるAM(Additive Manufacturing)エリア。AMエリアで開催されるワークショップの講師に**LUMEX**ならではのAM技術の強みについてインタビューをしました。



技術本部 開発研究
マネージャー

加納 佳明

■ LUMEXの特徴

LUMEX Seriesはレーザー照射による金属積層造形とマツウラが長年得意としてきたマシニングセンタの高速切削技術を1台に融合したマシンです。2002年にプロトタイプを開発し、2004年に世界初のハイブリッド金属3Dプリンタ**LUMEX 25C**を販売開始。現在のモデルとなる**LUMEX Avance-25**は5世代目となります。

■ LUMEXの強み

LUMEXにとって機械軸があることが強みです。造形だけでは得られない高品位な加工面を持つ造形物が1台の機械の中で実現できます。

また、機械軸は高精度にも寄与しており、造形時のレーザー座標系の補正を機械軸で容易に補正することができ、マシニングセンタと同様に主軸にタッチプローブを取り付けることで造形の土台となるベースプレートの位置を正確に把握することが可能であることから、ベースプレート上に正確に造形できるという利点があります。

■ LUMEXの活用事例

最も多く利用されている例は金型入れ子の製造です。この分野において多くのお客様に**LUMEX**ならではのメリットに共感して頂いております。そのメリットとして、**LUMEX**は造形と切削を交互に繰り返す工程のため、放電加工や型割にて対応していた形状を、**LUMEX**では1プロセスで製作することが可能です。従来工法では加工法の制限によって金型入れ子を仕方なく分割していた場面でも、**LUMEX**を使用することで不要な型分割を低減し、それにより冷却水管をより自由に配置することが出来ます。

部品製造においても、金属3Dプリンタの持つ特性を活かしたより自由度の高い形状の造形を可能にしつつ、**LUMEX**の持つ切削機能により、後工程の基準となる加工面を造形と同一座標で製作することができます。この切削面を、後工程での基準や着座として利用することで、後工程での作業が容易になりますので、**LUMEX**の特徴を活かしたモノづくりを提案しております。

JIMTOF2022では、**LUMEX**の強みを活かした新規製作のワークサンプルを多数展示します。ぜひ会場でご覧ください。

JIMTOF2022 AMエリア ワークショップ

ハイブリッド金属3Dプリンタ 「LUMEX」事例紹介

日時：11月8日(火) 13:15～14:15

会場：南2ホール出展者ワークショップ会場

講師：技術本部 加納 佳明

取締役 松浦 悠人



ビジネスパーソンの属性は3系統(Thinking, Communication, Leadership)に分類できると言います。T型は思考力が強み。しかし、慎重になりすぎ行動に移せない。C型は人付き合いがうまい。しかし、適当な発言でその場を乗り切り首尾一貫性がない。L型は目的意識が強く行動派。しかし、独断的になりがち。これはどの型が優れているというわけではなく、あくまで特徴づけです。

どれか1つではなく、「T型少しで、C型強め」という複合でも構わないとのこと。

肝心なのは、その人にはその人に適した役割があるということです。個人の型を矯正しようとしても無理が生じます。C型の適性が無い人に、社交的、外交的なマネジメントを真似させてもその通りに上手くいきませんし、本人に

は強いストレスが生じるのです。では、どうすべきか?例えば、T型は意思決定を他の人や組織的なシステムに委ね、プロジェクトの推進力を戦略思考でサポートすることで輝けるでしょう。C型はチームの各個人の能力や性格を見出し、切り口や策を引き出すのに注力するほうが良いというわけです。まさに個人の力を適材適所に組み合わせる最大限のアウトプットを引き出す組織運営の真髄がここにあると思います。

「あいつのやり方が気に入らない」「もっと自分みたいにやれ」このような思考は個人の本来発揮できる力を埋もれさせているかもしれません。このように自己や他人を分析すると、「他人は自分とは違う」ということを肯定的に捉えられます。また、自分はこういうタイプの役割になれば上手くいく気がする、という自己認識を持てることでキャリアの将来観も変わると思うのです。ちなみに私の場合は自己分析をすると、T型の少し入った強いL型で、C型ではないと考えます。さて、みなさんはどの型に当てはまるでしょうか?

海外ユーザーインタビュー

DX推進の一環として、マツウラグループではお客様の声を動画コンテンツとして発信しております。本誌では、配信中の動画の一部をピックアップしてご紹介いたします。ぜひQRコードからアクセスいただき動画をご視聴ください。

Multax社 イギリス 加工の量と品種は見合うのか?



Multax社はイギリス南部の部品加工会社で、自動車・航空宇宙・医療産業など様々な分野に精密加工部品を提供しています。また、変種変量生産での部品供給に強みを持ち、柔軟な生産体制を築いています。

設立から7年と比較的若い企業ですが、供給部品の信頼性と効率的な生産能力において高い評価を得ています。これは、同社が生産方法の改善と、設備への再投資を継続的に行っている事が理由です。そんな同社の設備投資として**MAM72-35V**は選ばれました。

MAM72-35Vの導入で実感したのは生産性の高さです。長期休暇中、32枚全てのパレットを用いて100時間以上の無人運転が可能となりました。また、70barのクーラントスルー性能についても、他社製品よりも冷却性に優れると高評価です。更に、この高い冷却性能のおかげで工具寿命が伸び、生産管理の負担が軽減されました。

- 「マツウラは次のレベルに進むために必要な設備でした」
- 「**MAM72-35V**を導入してからは、初めて加工するワークでも難なく加工できるという自信ができました」
- 「ファナックの制御は初めてでしたが、マツウラのサポートのおかげでスムーズに移行出来ました」

動画ではイギリスのマツウラ機で使用されている稼働監視ソフト**RiMM**についても言及しており、生産管理の指標やオペレーターの仕事の段取りに役立っているとのことでした。



Columbia Precision社 イギリス もっと早く買えばよかった



Columbia Precision社では、1980年から航空宇宙・エネルギー産業・モータースポーツ・医療・電気通信など様々な分野に向けた精密部品加工を担ってきました。同社は創立当初からUltimate Precision (究極の精度) を唯一の基準として掲げ、近年は最新設備や人材への投資を積極的に行っています。

投資の背景には、海外市場との価格競争があります。イギリスでは多くの企業がコスト削減のために海外生産を選択しています。しかし同社は、国内生産のメリットに着目して市場での競争力を強化してきました。

そんな中、人件費削減や生産性向上を担う設備として選ばれたのが**MAM72 Series**です。**MAM72 Series**の無人運転で加工不良が減少し、海外の低コスト業者とも渡り合うことのできる、コスト面での優位性を手に入れました。

- 「他社のマシニングセンタも使用していますがマツウラほど信頼できる機械は他にありません」
- 「マツウラ機は生産能力においても他の機械とは一線を画しています」
- 「マツウラは進化し続けるでしょう、だから我々はこれからもマツウラの機械と共にあります」

この様に、マツウラ機の信頼性について語られるとともに、今後のマツウラへ期待を寄せます。



新体制のご紹介

技術本部



技術本部長 松原 英人

技術本部長の松原です。新卒で入社した自動車部品メーカーを退職後、当社に入社しました。今年で勤続25年目となります。入社して初めて任されたのは、**ES-450H**のオプション設計でした。その後も、ATC、フロアパレット、リニアパレット、4/5軸など、

ほぼ全機種に渡って、新しいオプション、要素開発に携わってきました。その中でも特に印象的に残っているのは、マツウラで初めて採用する要素を使った開発です。

LXでは、DDMを採用した4/5軸、**CUBLEX**では3000min⁻¹のC軸、**LUMEX**ではガルバノメータ内製など、更に量産化にならなかったものの、**LX**の磁気軸受主軸、**H.Plus**のハイポイドギアのB軸など、兎に角、新しい要素の設計を任せて頂き、苦勞しながらも皆様から多くの助言、助けを頂き、設計開発業務一筋で担当してきました。そして、昨年、現職を拝命いたしました。

さて、我々、技術本部ですが、約90名で構成され、高速・高精度、自動化、5軸、そして使い易さにこだわって、製品開発をはじめ、様々な業務に取り組んでいます。

当社の創業者精神である「ひとのやらないことをやる」のもと、独創的な機械をいち早く市場に投入することに日々努めています。そのような伝統を受け継ぎつつ、新体制で大事にしていることは「設計者の想いを込めた機械を提供する」ということです。

今回開催されるJIMTOF2022において**MAM72-42V PC32**を初披露いたします。この機種は新体制のもとで開発をスタートした最初の機種になります。我々、技術本部でお客様のメリットを突き詰め、そのニーズに応えるべく新機能を開発し、搭載した機械です。**MAM72-42V PC32**は新体制となった私たち技術本部員1人1人の想いを込めた機械であり、今後の開発方針を示した機種でもあります。ぜひ、JIMTOF会場や当社で我々の想いをお確かめください。

今後も、我々、技術本部は、想いを込めた機械を考え、形にしていきます。そして、それがお客様に貢献できる機械であり、選ばれる理由となると信じて邁進してまいります。



▲担当した **ES-450H**



▲設計業務に励む若かりし姿

シングルorダブル

IMTSとAMB



社長 松浦 勝俊

この9月に4年ぶりに開催となった米国・シカゴでのIMTS2022、そしてドイツ・シュツットガルトでのAMBの工作機械展示会に行き参りました。両展示会は同じ週の開催で、前半シカゴ、後半シュツットガルトと大西洋を跨いで東回りの世界一周の出張となりました。どちらも2018年は非常に活況でしたが、今回はWithコロナでの開催であり、IMTSの出展者数は中国勢が非常に少なくドイツやスイスのメーカーも減少し前回の約3割減、事前登録者数も前回よりかなり少ないと聞いていたので、これは米国中西部からの来場者のみのローカルショーになるのではと危惧しておりました。しかし、蓋を開けてみると東海岸、西海岸、カナダからのお客様や北米ディーラーも多く来場され、数字こそ前回の3割強減でしたが、活気があってとても盛況な展示会となりました。AMBも初日から入り口に来場者の長蛇の列が出来ていたとのことで、流石にドイツ勢の展示にも力が入っていて、南部ドイツからの来場者を中心に欧州ディーラーも加わり実際の来場者、

出展者数はIMTSと同様に約3割減でしたが、これまた活況を呈しておりました。

多くのお客様から「久しぶりの展示会で最新の機械やテクノロジーを見られるのは、嬉しいものでやはり来た甲斐がある。また出展メーカーには、我々製造業をサポートするという意思を感じ、今後の設備投資に対してもユーザーとして安心感を持てる。」と有り難いコメントいただきました。メディアがインフレ抑制の影響や材料費・エネルギーコストの高騰から景気後退が近づいていると伝えている中で、来場された殆どのお客様は「とても仕事が忙しく暫くはこの状態が続く」という意見が圧倒的に多かったです。製造業セクター全般は、まだまだ力強さを維持して進む印象を受けました。「一番困っていることは」と聞くと、やはり異口同音に「人材確保が問題」だと。このことから両展示会で5軸機や複合加工機にパレットシステムやロボットを付属した無人化対応の展示が多く見られました。

さてこちらも4年ぶりの開催となる11月東京でのJIMTOF2022では、更に魅力の増したショーになるものと確信しております。日本工作機械工業会の見本市委員会委員長としても、大勢の皆様のご来場をお待ち申し上げます。

お知らせ

1 第48回北信越フットボールリーグ 「松浦機械製作所スペシャルマッチ」

マツウラは地元サッカーチーム「福井ユナイテッドFC」をトップパートナー企業として支援しています。2022年8月28日に9.98スタジアムにて開催された第48回北信越フットボールリーグ1部第11節は「松浦機械製作所スペシャルマッチ」と題され、試合前のキックインセレモニーを松浦勝俊社長が務めました。JAPANサッカーカレッジ（新潟）との対戦となった本節、結果は1-2と惜敗した福井ユナイテッドFCでしたが、最後まで一点を追う白熱した試合となりました。



▲ キックインを務めた松浦勝俊社長



▲ 当日の選手集合写真

2 2023年入社予定 内定者研修会を実施

2023年4月に入社予定となる、採用内定者の研修会を2022年8月28日に実施しました。研修終了後には同日9.98スタジアムで行われた「松浦機械製作所スペシャルマッチ」を観戦。スタンドには2022年入社の新入社員も応援に駆け付け、内定者との親睦を深めました。



▲ 試合観戦には新入社員も参加



▲ 研修に参加した内定者一同

3 技術職 夏季5Daysインターンシップを開催



▲ 本年の参加学生（左）とLUMEXで造形した記念プレート（右）



マツウラでは例年、理系就活生を対象とした5日間のインターンシップを開催しております。本年は9名が参加し、機械設計、電気設計、加工技術、AM技術など4職種について実践形式で体験しました。

AM技術では各参加者が設計したイニシャル入りのプレートをLUMEXで実際に造形し、記念品として贈呈しました。

本号の書き終わり

* 8月度の工作機械受注額は1,393億円（前月比98%）と6か月ぶりの1,400億円割れとなりましたが、8月単月としては過去2番目の受注額となっています。内需は518億円（前月比99%）と前年同月比では18ヶ月連続増加となっています。8月は夏季休暇等の営業日減などにより、売上が減少し易い月ではありますが、半導体関連需要や自動車関連の回復が下支えし、前月比微減となりました。外需は876億円（前月比97%）と8か月ぶりに900億円を下回りましたが、8月単月として過去最高額を記録しました。アジアでは、2ヶ月連続で450億円割れ、欧州で

は2か月ぶりの160億円割れとなりました。一方で北米は12か月連続で250億円を超え、高水準の受注が継続しています。

* 2022年9月、一般財団法人日本総合研究所が公表した「全47都道府県幸福度ランキング2022年版」において、福井県は5回連続の総合1位と発表されました。総合順位は「仕事」、「教育」、「生活」、「文化」、「健康」分野から総合的に評価され、福井県では特に「仕事」、「教育」分野がそれぞれ1位評価でありました。一方で「文化」については41位と、都道府県ワースト10入り。学生などの若者から「福井は面白いものがない」とよく耳にしますが、それが数字にも反映されたようです。教

育が充実し、様々な仕事があっても、日々の生活に変化をもたらすような面白さがないと福井県に若い人は定着しないということです。しかし、福井の文化を充実させようと新たな街づくりや催しが増えつつあることも事実です。福井県がどんどん面白くなり名実ともに日本一の県になる日も近いのではないのでしょうか。

* 11月はいよいよJIMTOF2022開催です。前回の2020年はコロナ禍を考慮しオンライン開催でしたが、4年ぶりに東京ビッグサイトでリアル開催となります。今回は60周年のメモリアルイヤーでもあり、過去最大の盛り上がりとなることが期待されます。開催の様子は今後のマツウラNEWS!で報告いたします。